

スクールインターンシップでの学びと成長

文学部 国文学科 匿名

1. はじめに

私は京都市の高校で研修生として活動をしました。教育学部生ではない分、現場の先生方からお話を聞いたり、生徒と実際に関わったりする機会は自ら行動しなければ得られるものではなかったため、教育実習の前にインターンシップで経験をしておきたいと思ったことが参加理由です。

2. 活動内容

主な活動は授業見学でした。国語科の全ての科目を見学しました。また、地理や世界史、公共、情報、工芸といった私自身あまり経験していない授業も担当の先生にお願いをし、見学することができました。また、文化祭の保護者対応や生徒の活動見学を行いました。さらに、修学旅行や入試説明会等行事の企画を担当する先生からお話を聞き、資料作成も行いました。

3. 学んだこと

インターンシップを通して得た最も大きな学びは、あらゆる場面で生徒を重んじる工夫が意識されていたということです。

まずは、授業についてです。同じ科目の授業でも、クラスや教師によって方法が異なることを実感しました。同じ先生の授業でもクラスが異なれば、学力や雰囲気に合わせて進度や話し方が変化し、同じ単元の授業でも先生ごとに特色が感じられました。授業中の先生の振る舞いや生徒の反応からも学ぶことができ、授業後の振り返りをしてくださったことも大きな学びとなりました。例えば、生徒を指名する際どのような基準で指名しているのか、という質問をした際、生徒の興味関心に沿ってランダムにあてているという先生がいらっしやいました。何気ないことではあるかもしれませんが、生徒の興味関心は普段の様子をよく観察し、コミュニケーションをとらなければ分からないことです。さらに、答えられた生徒の自信にも繋がる工夫だと思い、意識の積み重ねが大切であると実感しました。

次に、職員室でのやりとりです。空き時間に職員室で待機していると、先生方が生徒の様子を話題にしたり、出欠の確認をしたりする場面を何度も目にしました。担任だけでなく、そのクラスを授業した教科担任も個人個人の様子を細かに話しており、ここにも生徒のことをよく見るという意識があると分かりました。特に、文化祭の後に体調不良者が続出した際、情報交換が細くなくされており、生徒に関して多くの先生方が関わり合いながらチームで働くことの大切さを目の当たりにしました。

では、自分が教師になった時にチームの中でどのような役割を担えるだろうかと考えた時、校務分掌で発達支援を担当されている先生からのお話が参考になりました。通常学級で過ごす上で、個人的な配慮が必要な生徒にどのような支援をするのかを考え、担任等と連携して実行していく内容でした。元々、大学の座学で学んでいた教育の特別ニーズに関心があり、実際に行われていることを知り、この分野での学びを深め、将来自分の強みとしていきたいと考えました。

4. おわりに

多くの学びを得た研修の中で嬉しかったことは、生徒の頑張る姿に胸を打たれたことです。文化祭では高校生が創作ダンスや部活動の成果発表を行っており、夏休み返上で準備し、一つのことを仲間と成し遂げて

いる姿に感動しました。そして、そのような生徒の頑張りに関わることができる教師という仕事の魅力をますます感じることができました。授業中や授業後に生徒とコミュニケーションをとることもでき、インターンシップの目的を達成することができました。

このように、スクールインターンシップでの活動を通して、当たり前かもしれませんが、生徒のことをよく見て動くということの大切さを学び、さらに将来教師になった時の自分のビジョンを考える機会にすることもできました。臆せず自ら行動し、学んだことを教育実習や教師になった時に活かしていきたいと思えます。